

埼玉県山岳連盟
埼玉岳連報 第32号

発行者 森下 健七郎
発行所 岳連事務所 天野賢一方
〒333-0823
川口市石神179-40
編集人 岩井田 正昭
発行部数 1600部



平成21年 理事・新年会 本年もどうぞ宜しくお願いします

《巻頭言》 新年のご挨拶

埼玉県山岳連盟・会長 森下 健七郎

新年おめでとうございます。

私達、埼玉県山岳連盟として昨年度を振り返って見ると、埼玉高体連登山専門部の全国高校総体・登山大会運営の支援をし、大成功裡に終了する一役を担いました。ご支援・ご協力を戴いた関係者に深く感謝致します。

又、岳連後援事業として海外登山委員会と遠峰山岳会が中心となって、次のステップとしての海外登山を企画し挑みました。短い日程の中で次に繋げる成果を上げる事が出来ました。岳連内の事業も一昨年の盛沢山全国規模の事業は無く、組織内の活動(自然保護では自然観察会や各種の清掃登山の展開、遭難指導ではレスキュー・遭難防止・指導者講習会、クライミングではKAZO・コバトン・ポルダリング大会・ステップアップ講習会等)を淡々と地道に重ねて来ました。又、新たな試みとして、各事業に実費以外に「プラスαの付加価値を加えた参加費設定する」企画が出てきた事は未来に繋がる方向として評価したいと思えます。さらに、組織以外の登山者愛好者に広く呼びかけた魅力のある事業の創出に発展していく事を期待しています。

さらに又、63大分国体では成年女子(ポルダ3位・リード5位で皇后杯7位)の活躍で埼玉県の天皇杯3位・皇后杯4位に大いに貢献出来ました。

成年女子出場の間間希美は10月末の広島でのアジア・ユースチャンピオンシップのジュニア部で優勝、期待の中学生尾上彩、関東地区C神奈川大会・女子で優勝と女子の活躍が目立ちました。

2年に一回の「岳連所属証明書」の発行には多くの単会・個人の協力を戴き、本当に感謝しています。その特典を増やし、元の取れるカードにするべく努力をして行きたいと思えます。又、事務局の事務通信の簡素化の為に可能な限り(電子メールでのやり取り)のお願いをして来ました。

今後とも一層のご理解とご協力をお願い出来れば、大変助かります。

さて、本年は大きな主管事業としてはロッククラフト川越では2月末「ボルダリング・ジャパンカップ」、加須市民体育館では4月中旬「ボルダリング・ワールドカップ」と12月末「第1回全国高校クライミング選抜大会」等が我が埼玉県山岳連盟に要請があり、主管します。日山協の中で、(正に頼りになる地方山岳連盟として大きな評価を得ている)事は誇り高い事です。これも、それぞれの分野で日常的な活動の中で(個々の実力と組織力を発揮している)会員とそれを支える単会のお陰と深く敬意を表します。これ等の行事をこなしていく中で、更なる力量アップを目指して楽しんで活動して戴ければ、嬉しい限りです。

登山は基本的には元々、自己責任・自己満足の無償の行為・スポーツだと思います。しかし、その独自の活動の価値を広く世間にPRして認知させて行く必要があると思います。さらに又、そこで培った登山の知識・技術・経験等が「単に自分だけ・単会だけの財産としてしか使われない」と言うのも誠に(モッタイナイ)事です。何らかの形で膨大な数の登山愛好者へも伝達・還元して行く事が今求められていると思います。既に地区岳連や個人等でそういう地道な活動を、長年に亘って行っているという例も聞いています。そういう活動は必ずや埼玉岳連の組織拡大・活性化に繋がって行くと確信します。「衣食足れば自分の笑顔」為に・・・さらに「衣食足れば他人の笑顔」に発展させて行ければ最高だと思います。岳連組織が積極的にその仲介役を担って行ければと思っています。

今、世の中は経済を中心に暗い話題に充ち満ちています。こういう時代だからこそ、私達の(楽しみをベースにした活動が社会に活性を注入出来る)では?と思っています。今年も各委員会活動の活性化を期待しています。それには各単会・各個人の活動の活性が基礎・基本だと思います。各単会・各個人が生き生きと笑顔で活動出来る事を祈念致します。

☆その一手! 『完登』目指して☆

二〇〇八年十二月十四日(日)

埼玉県山岳連盟クライミング委員長

大会審判長・土屋正昭

師走恒例の県民総合体育大会(コバトンクライミングカップ)も、今回で二十一回目となった。

この大会は、埼玉の県教委・県体協・県岳連と県高体連の主催で、クライミングの普及と人材育成・新人発掘等を目的として行っています。したがって、ジャパンカップ入賞者クラスの参加を断り、最高レベルのカテゴリーをミドルに抑え、エキスパート級はありません。同地で行う加須カップよりマイナーな位置づけです。近年では、ボルダリングやクライミングジムの普及も相俟って、若年層の参加希望者が多く、全体で概ね百人程度の申し込みがあります。今大会もその傾向が続く、参加者九十七人中成年(一般)は十二人とやや少なめでした。

先ず、大会の流れを大雑把に記します。十月の県岳連常任理事会を経て、十一月の理事会に要項を報告し、この頃から作業が徐々に始まる。県岳連の各会・県内の高校や過去に参加のあったジム等に通知を出す。その後、参加者の応募が本格化し、県内外からの問い合わせも沢山あった。

「埼玉県に住んでいないと?」「申し込みはどうすれば?」...云々十一月下旬から、県岳連クライミング委員会と加須市岳連で、各セクションの担当者割り振りを兼ねた打合せ会を三回ほど実施。この頃、小生のFAXに不具合が生じ、直って安心した途端、今度はパソコンが壊れて、問い合わせや連絡に『パニック!』通信方法は携帯頼り...

このパソコンのトラブルには、正直かなり滅入った。今の時代は、文書ひとつ作るのもパソコンに頼

らざるをえない。現代版の生活必需品だつくづく思う。そんな折、天の助け?大倉事務局長(大会競技委員長)から連絡を頂き、直ぐに資料を持ち込んで、後の段取りをお願いした。

ホッ!「助かったあ...」

数日後、加須市スポーツ振興課と役員を交えて、全体説明会を行っております。大会前々日には、加須市民体育館クライミングウォールのルート表示テープ(既存)を、全て剥がし終えています。

前日は、ルートセットとアイソレーションゾーン等の会場設営です。今回のセッターは、チーフが磯部さんで、サブに早稲田大学の角田君と地元加須で埼玉のエース佐々木君(KSCC)、アジアユース優勝の立教大学の門間さん(KSCC)が紅一点で入り、昨年の覇者である久喜工業高校の細田君(加須・ビナ)が初セッターとして協力してくれた。

ビックリしたのは、大会直前に栃木出身の安間君から、ぜひセッターに加わりたいと申し入れがあったことです。ご存知の方も多いと思いますが、今年のワールドカップ・シャモニ大会で、銀メダルを取った『世界のトップ選手』です。勿論、断る理由などある筈もない。でも、正直セッター費用だけは一才心配になったが...。大会当日は、午前八時に役員が集合し、八時半から選手の手付け、九時半から開会式とスムーズに進む。概ね十時から、各予選競技が始まり午後七時半のミドル決勝終了まで、アスリート達の熱い戦いが延々と繰り返された。

閉会式は、各カテゴリーの結果を発表した後、森下県岳連会長より表彰状の授与と賞品の贈呈があり、最後は男子総合一位と女子総合一位に、今年から設けた田中賞の優勝カップと図書券(田中会長のご厚志)を田中・日本山岳協会会長が手渡す。終わりは、午後八時を少し回っていたようだ。



スピード競技に挑む

次に競技関係ですが、昨年と同じカテゴリーは、トップロープ・ジュニア・ビギナー・ミドルの四部門です。予選は、全てフラスコ形式の各カテゴリー一斉スタートで、二本のルートにトライします。決勝は、最終オブザベーションとして四〇秒間が、アテンプト開始前に認められる新ルールを採用した。やはり、これは少々時間が掛かり過ぎる。グレードは、予選一本目のトップロープが五・九、決勝ミドルは五・十二Cとのことでしたが、選手の皆さんはどのように感じましたか？

トップロープは、年齢を小学生以下に制限しました。昨年は、小学生から大人まで参加者が幅広く、あまりに身長差（最大七十七センチ）が目立ち改めたものです。高校生や大人には、頑張っ上上のビギナーで出るよう頼み込んで、「参加者が減るのではな



表彰式 日山協・田中会長より

ジュニアは、中学生以下が対象です。四部門の中で一番参加者が少ない。もう少し参加者がバラける

と運営はし易いのですが、ジュニアの年齢層は年々レベルが上がって、ビギナーやミドルで参加していることを考え合わせると、これもきつと良い傾向なのでしょう。ビギナーは、ミドルと共に三十名を超す激戦区でした。

申込みの早い段階で栃木県からの参加者が数名あり、その後、群馬県と埼玉県のままに三つ巴の高校生大会となった。そんな中で、自分の子供や生徒から誘われ、出る人も、「一緒にがんばろう！」

今回初めて、ミドル決勝のルートセット時間を利用して、隣の壁でスピード競技を行って見た。まだまだ試みの段階ですが、十分楽しめるものだと思う。やや過熱しすぎると、怪我をしないか心配になる。その点をクリアーし、若干ローカル色を加えれば、この種目もなかなか面白い。

ミドルは例年通り、加須市岳連の仲間が出場した。他の大会では、運営の県岳連役員として重要なポストを担う人たちである。当然、選手として出るからには、ある一定レベルを維持する日頃の努力が必要

です。四十歳を超えても、なお選手で出る中高年の岳人達には、本当に頭が下がります。立派です。「偉いなあ〜」一年でも長く頑張ってください。

大会を終えて、いくつか反省点もあります。参加グレードをもっとハッキリ区別するとか。段取り面では、もう少し決勝までの時間を早く出来ないか。等々は、来年度の検討課題とさせていただきます。

参加いただいた選手の皆さん、ちよつと時間が掛ったけど概ね成功です。素晴らしいクライミングを見て感動しました。更にレベルアップした登りを来年の「加須カップ」で、ぜひ見せてください。

いつも快く協力してくれる高体連の先生方、県岳連や加須市岳連の皆さん、収入も少ないため諸経費で消え、殆どがボランティアです。申し訳ありません。選手・役員の皆さん「大変お疲れ様でした。」心より感謝申し上げます。

最後に、大会終了後『村岡理事長の中国赴任に伴う壮行会』の案内に対しまして、大勢の方々にご参加を頂き盛大に出来ました。ここに発起人の一人として、厚く御礼申し上げます。加須での次回クライミングコンペは、来年四月十一日(土)〜十二日(日)の日本初開催のビックイイベント『ポルダリング・ワールドカップ』です。この大会は、『世界三十の国と地域』からの参加者が見込まれます。選手や役員あるいは観客として、皆さん大勢で加須にお出ください。それぞれ色々な立場で、協力方よろしくお願

いいたします。

「がんばれ！埼玉」

我々岳人の夢は、未だ留る所を知りません。



ミドル入賞・左から 塚田、高山、弓田の各選手

《成績》	
【田中賞】	男子総合一位 高山 悠樹 女子総合一位 平井 悠希
【ミドル】	一位 高山 悠樹 二位 塚田 遼河 三位 弓田 溪介
【ビギナー】	一位 榑崎 智亜 二位 小嶋 雄斗 三位 増山 貴祐
【ジュニア】	一位 比企 千織 二位 櫻井 良基 三位 内海 亜沙美
【トップロープ】	一位 榑崎 明智 二位 菊沢 絢 三位 和田 花織

特別寄稿

『新疆ウイグル自治区とアルタイ、

シルクロードの旅』 連載 最終回

※前編(31号)は出発地・ウルムチ市から敦煌を経て
コルラ(タムリ盆地・北縁)へたどり着くまで。

《鉄門関》

コンチユエ河(孔雀河)の上流にある長さ十四キロに及ぶ噴峡谷の終点に位置する砦で守りが非常に堅固であったために、鉄門関と呼ばれているトルファン、ウルムチ方面とタムリ盆地を結ぶ要塞として兵家必争の地となった。

《アイデンコ》

コルラから国道二百十六号線と分かれてトクスンから右に折れて、トルファン盆地の南部に広がる面積百二十四平方キロの塩湖で湖面は海拔マイナス百五十四メートルで中国最低部の場所であります。

アイデンはウイグル語で月光湖の意味で以前は水量が多かったときには湖面が月光のように輝いた、そこから名づけられたそうです。

《トルファン》

トルファンは世界でも有数の低地である天山山脈の東端にボゴ峰、南に広がったトルファン盆地の中央に位置するオアシスの町で人口二十六万人、

古くは火州と呼ばれ漢の武帝時代には高昌郡が置かれ西域の拠点であった、南北朝から唐代にかけては漢民族の王朝高昌国や交河郡が栄え繁栄を極めた、それから唐の直接支配を経てウイグル人が西ウイグル王国を建国すると、ベゼグリク千仏洞を代表する高度な文化が出現しトルファンは最盛期を迎えた。

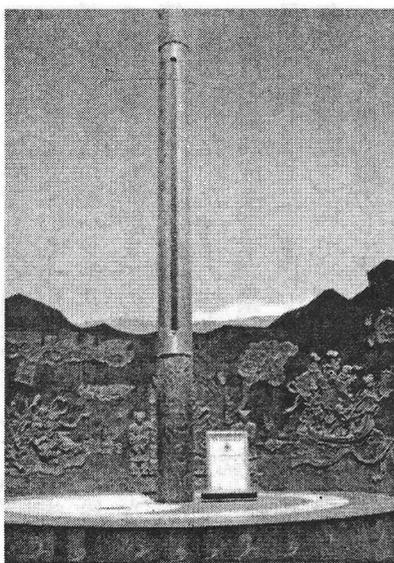
《ベゼグリク千仏洞》

ムルトウク河南岸にある有名な仏教石窟「ベゼグリク」とはウイグル語で装飾された家を意味する石窟の開削は六世紀の麹氏高昌国期から始まり、唐五代十国宗元代と続けられた、高昌ウイグル帝国がトルファンを支配していた九世紀中期当時彼らは仏教を信仰していたこの地は王族の寺院とされた。

《高昌故城》

この地には漢代に高昌壁や高昌墨と呼ばれた砦が築かれ前涼期には高昌郡が置かれた後麹代高昌国から高昌ウイグル帝国にかけてのおおよそ、千年の間国都として繁栄した、また玄奘がインドに仏典を求めて向かう途中ここで高昌国の王、麹文泰に最高の待遇で迎えられて二ヶ月も滞在し一ヶ月に渡り説法を行ったこともよく知られている。

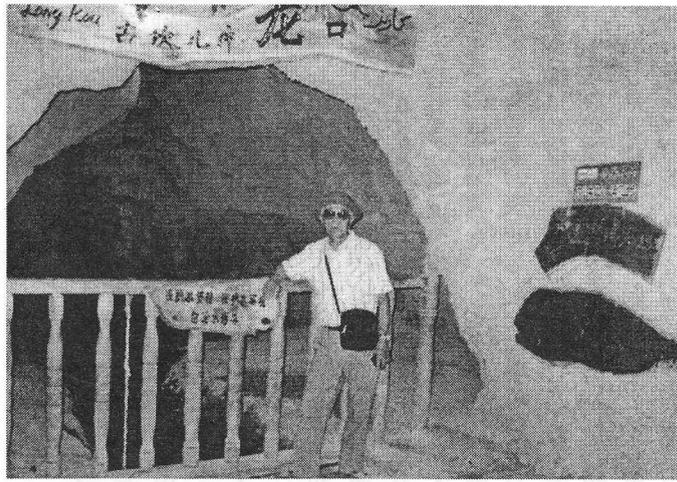
《火焰山》



火焰山・世界最大の温度計

トルファン盆地の中心部にそびえる海拔五百メートルの山、紅砂岩で構成されているため夏の強烈な日光を受けると赤い砂岩が反射してまるで炎を出して燃えるように見えることからこの名がある「西遊記」で孫悟空が鉄扇公主と戦い芭蕉扇で火焰を消し一帯を草木の緑にして民衆を喜ばしたと云う、故事はこれを見

て題材にしたものである。
 私がこの地を見学し散策した時は世界最大と云われる温度計は摂氏五十五度をさしていた。
 《砂漠の知恵・カレーズ》



カレーズ（地下水路）前で筆者

シルクロードのオアシス都市は三つのタイプに分けられる。一つは河川の水を利用しオアシス（カシユガルやホータン等）もう一つは湧き出る泉を利用したオアシス、最後にカレーズ。カレーズとは乾燥した砂漠気候の土地で考えられた水を引くための地下水路を遠く天山山脈に積もった雪は溶けて地中にしみこみ地下水形成する、まずこの水脈を探し当て親井戸を造る、それから目的の地までの間に二十から三十メートルで井戸を掘りそれを地下でつないで地下水路を造る、短い物で五キロから六キロあり長い水路では四十キロから五十キロにも及ぶ総延長は五百キ

ロにも達すると云う最近は一部一般に開放されて観光として見学することが出来ます。

トルファン駅を十三時〇七分発の西安行き夜行寝台車の乗り六百八十二キロの列車の旅となった、敦煌の入口柳園駅に朝の十時十分（三十分の早着）のため下車するのに支度が忙しかった駅より敦煌までは車で五十キロ距離にある。

《敦煌》

世界遺産の莫高窟で知られるオアシス都市沙州と呼ばれた敦煌はその名の通り広大な砂漠に囲まれている甘肅省の西端に位置する都市で漢の武帝が紀元前百一一年に置いた河西四郡（張掖、武威、酒泉、敦煌）の一つ、漢代には西域に対する最前線の軍事拠点として重要な役割を担った敦煌は誰が支配者になろうとも東西の人々が行き交り、文化が開いた、シルクロードの交差点であり続けた。

飯能市山岳連盟・奥武蔵ワンダーフオゲル

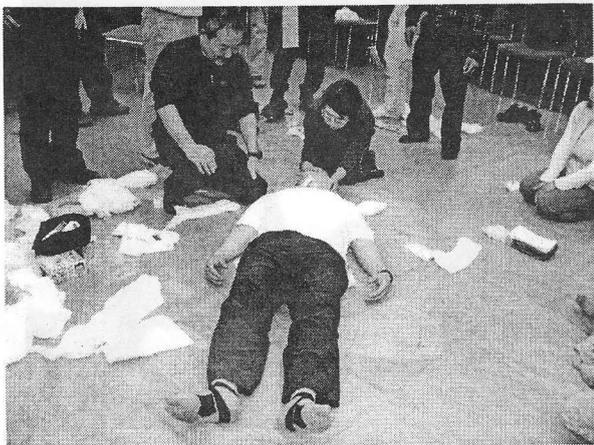
・新井宏司

※編集・注 2回に渡り掲載した記録報告は、新井県岳連・参与が実際に現地を歩かれた貴重な記録です、なお送り仮名等はほぼ原文のままです。

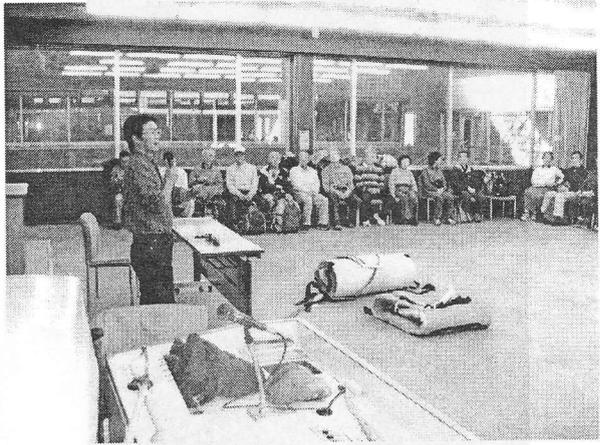
ぜひ読後感想をお寄せください。広報・岩井田

《平成20年度冬山遭難防止講習会》

県岳連・遭対委員会による恒例の冬山遭難防止講習会が例年より1ヶ月前倒しで、11月29日、30日の2日間、県民活動センターで開催された。初日は 恵講師による医療救急講習をおこない、翌日は瀬藤委員長の指導により縦走路、岩場でのレスキュー技術講習会を行った。午後からは埼玉県警山岳救助隊・飯田副隊長により「秩父管内に置ける山岳事故の実例とその救出状況」などを講演された。講習会参加者は2日間で延べ72名の盛況だった。



恵講師より救急時の頭部・固定法を学ぶ



搬送方法についてレクチャーする瀬藤委員長

2008年

ネパール：クーンブヒマラヤ登山報告

―はじめに―

今回の目的は、近い将来の8000m峰の高所登山を意識した、高度順応及び冬季登山の実践。海外登山委員会の飯塚誠一さん(本庄山の会)の参加をいただいた。結果は、当初の計画通り、カラパタール(5245m)、ロブチェ・イースト(6119m)の2座の登頂に成功し、目的を達成した。

《行動記録》

12月29日、朝陽を浴びながら、ロブチェの宿泊ロッジ(4300m)を離れて、浅い斜面を辿る。尾根を越えると、下部には黒々とした大岩壁が現われた。

これがロブチェ・イースト(6119m)である。エベレスト街道を通れば必ず視界に入るが、多くの登山者は注目することなく通過してしまう。

ガレ場を登って行くと、傾斜が増す。辿る踏み跡は迷うことはない。凍ったルンゼ状の奥まった地点から、左に廻り込むと簡単に上部に出られた。

少し登ると台地が現われ、ここがハイキャンプ(5300m)地点だった。テントを張れば、周囲を山に囲まれた雲上の楽園、そんな表現が相応しい場所だ。手を伸ばせば届くような距離にヒマラヤがある。夢のような空間を共有できる満たされた瞬間である。

12月30日、テントを離れると、漆黒の闇にヘッドランプの淡い灯りが鈍く光る。下部の岩場を登る。所々、凍っているの以外と神経を使う。狭い視界に全体を見渡すことは難しいが、上部を目指して高度を上げることだけは確かだ。

一時間余り登ると、夜が明けてきた。岩と雪のミ

ックスした登りづらい個所が現われた。稜線からアイゼンを装着し、雪の斜面を登る。雪壁になる地点から、フィックスロープ約400mを張りながら、高度を稼ぐ。

マカルー方面を仰ぎながら、傾斜を目測するとかなり急峻だということがわかる。雪の状態も安定しているのので、快適な登山を楽しむ。何よりも眺望が素晴らしい。

取り付いてから、5時間余りで山頂に続く稜線に辿り着いた。傾斜の緩くなった斜面を登ると、雪に埋もれたタルチョがあり、そこが、ロブチェ・イースト(6119m)の山頂だった。ネパールの国旗と日の丸を掲げて記念写真を撮る。

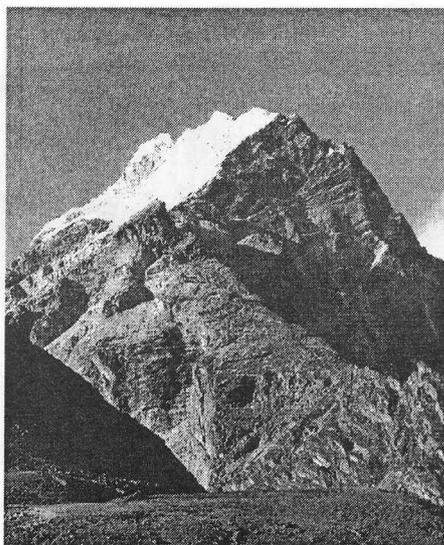
ここからは、エベレストやプモリ、ヌブツェ、ローツェ、マカルーとヒマラヤの山々を仰ぎ見ることが出来る。

12月27日に登ったカラパタール(5245m)からのエベレストとは違った角度からの世界最高峰が眺望できた。のんびりと景色を堪能したいが、10分余りの滞在で下山を開始。

足場を確認しながら、急な雪壁も前向きで下る。慣れていないと不安定な姿勢になる。フィックスロープにカラビナを通し、自分で速度コントロールをしながら下る。これがヒマラヤ登山の安全に迅速に下る方法である。

アイゼンを外し、岩場を下る頃には、身体も要領を覚え、斜面を適当に選びながら下ることができた。徐々に高度を失い、見慣れたハイキャンプに到着する。振り返るとロブチェ・イースト(6119m)の山頂が遠くなくなっていった。テントを片付けて、エベレスト街道を辿れば、今日の宿泊地トクラに到着する。

(文責：大山 光一：東松山山の会)
※編集・注 筆者は県海外登山委員会メンバー



ロブチェ・イースト(6119m)の全容



ロブチェ・イースト山頂(左から大山、江川、飯塚)

《記録レポート》

大宮アルパインクラブ(OAC) 山行報告

【山行報告書】 提出者 村上修

参加者 横田川和徳、村上修(2名)

山域 北ア黒薙川 北又谷・日付・2008/8/13~15

ちょうど1ヶ月前7月13日、OACの会山行の体験山行に参加させて頂いたとき、沢のエキスパートが来るといふ情報を石倉さんより得ていました。湯檜増川本谷では、しんがりキープしつつ、難所では、先頭に立って、我々を導いてくれ、状態の悪いにもかかわらず、ストレスをあまり感じず終えることが出来ました。下山後、思いもしていなかった北又に行かないか

のお誘いでした。以前、所属していた会(岳)での活動は岩とフリークライミングが主で沢は年に3、4本行く程度でしたから、北又谷は知っていても現実的には行けるとは夢にも思っていなかった。ただ、OACに入ったら沢も積極的にと思っていた矢先のことだったので二つ返事でOKした。

それから、ガイドブックや資料、地形図を読みあさり、頭の中にイメージを膨らませていった。沢でこんなに真剣にルート研究はしたことはなかった。あつという間に1カ月が過ぎ、直前に防水デジカメを仕込んで、長岡経由一路小川温泉へ

8月13日

am6:30 小川温泉から予約のタクシーで越道峠へ(タクシー代 8300円)

石碑の後ろ側から登山道(けっして踏み跡には見えない)を30分で平坦な尾根に登り東面を沢伝いに本谷に降りる。北又谷本谷は花崗岩の白さが美し

く、木々の緑と空の青さに映えて輝いていました。わずかに徒渉を繰り返すと、魚止めの滝で左岸からパウーに圧倒される。ここを泳いで取り付くの？水の苦手な自分はすでに諦めの境地！横田川さんは、臆する様子もなくトライ。時計回りの水流に乗って流されていく。リッジのホールドを取り損なって、激流の中に呑み込まれ10秒くらい浮いてこなかった。何とか戻って再度トライ。今度は村上がロープの引きすぎでリッジにさわれず戻る。三度目、別のホールドを取りに行つて失敗。四度目でホールドをつかんだが、体を引き付けることが出来ず、断念。大釜は突破出来なかったけれど、横田川さんの水に対する遊び心、思い入れは格別なものがあることを学んだ。

小一時間大釜で遊んで右岸を小さく巻いて降りてすぐ、又右衛門滝、大きな金いっぱいエメラルドグリーンに輝き宝石のように美しい。通常、巻いてしまふ処を我々は攀ことを目標にしてきたのでさつそく取り付く。数少ない攀った記録を見ると左岸の中央の弱点から、フリーで登っている。村上はそこまですぐ泳げる自身がないので、もつと右側の弱点から取り付くことに。しかし、水面から1m上がって左へ3m難しいトラバースをしないと安全地帯にいけな

い。5m泳いで取り付くが体は多少上がるが腕が上がつてすぐ退却。続いて横田川さんが小さいスカイフックを取り出し、色々試みるが上手くいかない。村上が大きいスカイフックを持っていたので渡し、シュリングアプミを使って水面から上がる。横田川さんはそこまで。次は村上の出番。フリーでトラバースに挑戦。蛇にまとわりつかれ、集中できない状態だがなんとかクリアーしてザックの荷揚げと横田川さんのブルージック登攀の確保用にハーケンを一

枚打って登ってもらった。

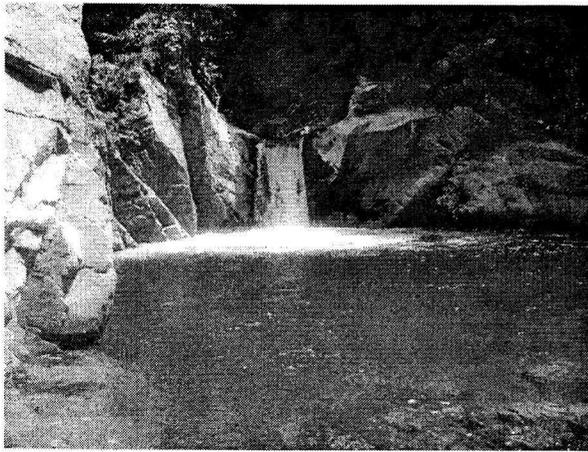
又右衛門滝を攀じ登るのに2時間費やした。二人の得意な面を最大限に生かした、いいチームワークで登れたと思う。又右衛門から白金谷出合いまで徒渉、へつりを繰り返して飽きてきた頃程よいテン場に着く。

8月14日

雨が降ったり止んだりの空模様の中、am6:00 出発白金滝と三段の滝は寒くて残念だけど左岸から巻く。横田川さんの高巻きの読みというか、長年の経験によるものなのか、どれもバッチリの下降点に降りることができた。雪渓の手前で今夜のおかずにと「こみ」を摘んだ。(摘んで食べるのも初体験)黒岩谷出合い8:00着。本谷に入ってサルガの滝を左岸から巻いて、吹沢谷出合いに9:00ジャスト。横田川さんは竿を取り出し、今夜のおかずを確保。村上の初めての岩魚釣りを楽しんだ。最後に手掴みで岩魚を捕まえる芸当を見せてもらって、計7匹、十分すぎる数だ。90分程遊んで北又乗越へpm1:00に仕事道なのか狩り払ってある尾根に出た。相又谷への下降点を特定するのに40分程周囲を確認するも、詰めた所より5分のところに白い布切れに「相又谷、左へ」という目印を素直に薄い藪の中に入っていけば、すぐ沢状になり、それを下ればいい。高さのない滝や堰堤を3、4度の懸垂で降り、pm4:00まで下って、適当なところでテン場とする。

8月15日

今日も雨模様の空を見上げながら、am6:00 出発。20分下って、左岸の上部に林道を見つけ泥付きの壁を登って林道に上がった。工事中の林道の終点から90分で小川温泉に着く。今回の北又谷は私にとつて未体験の要素が詰まった充実した山行になりま



又衛門滝 (エメラルドグリーンに輝き宝石のように美しい)

した。エキスパートの横田川さんの後をついての山行だったけれど、互いにストレスは感じなかった山行だったと思う。装備の面では、私はライフジャケットが欲しかったのと、デジカメの電池の充電が足りず宝の持ち腐れになってしまったのが残念だった。8月13日 晴れのち雨

〈タイム〉小川温泉・am6:30・越道峠・am7:00 北又谷の河原・am8:40・魚止ノ滝取り付き am9:10 滝上・am9:55 大釜下・am10:15 又右衛門滝取り付き・am11:40 滝上・pm1:15 白金谷出合テニ場・pm3:50 8月14日 雨

〈タイム〉白金谷出合 am6:00 黒石谷出合 am8:20 サルガ滝 am8:45 吹沢谷出合 10:00 北又乗越 pm1:00 相又谷660mテニ場 pm4:15 8月15日 雨

〈タイム〉テニ場 am6:10 小川温泉 am7:50

《埼玉県山岳連盟・12月常任理事会》

議事録 敬省略

開催：平成20年12月9日 鴻巣高校武道館 午後7時30分～9時10分

- 0. 出欠席 森下・柳原・石倉・福田・村岡・天野・瀬藤・岩井田・野村・長谷川・岩崎・小茂田・土屋・加藤・道浦(KSSCC新理事)(14/15+1)
- 1. 開会挨拶 (柳原副会長)
- 2. 挨拶 (森下 会長)
- 3. 報告

①11月22日・インターハイ成功を祝う会 (高体連) ◆参加者約50名 岳連7、8名

②11月29、30日・救急医療講習会・講演会 (遭難対策委員会) ◆参加者35+37名

③12月6、7日太陽寺 下草刈り会 (自然保護委員会) ◆参加者 名

④12月7日・栃木岳連60周年記念式典・祝賀会 ◆石川富康記念講演会があった。

◆田中名誉会長・森下会長、石倉副会長、加藤事務局参加

4. 協議

(1) 1月以降の事業について

①理事新年会 ●幹事長：森下会長／会計岩井田 期日1月23日(金) 19時～21時 会費5,000円

◆申し込み先：岩井田(別紙参照) 会場：「日本料理・さわや」川越市脇田本町11・さわやビル TEL:049-241-2345

②積雪期登山講習会・指導員研修会について

●申込状況：まだ無し 例年2週間前から申し込みが来る。是非、早めにお願ひします。宿泊は、30～50名可能です。

③緊急避難講習会 ◆期日：2月28日・3月1日・

谷川岳登山センター周辺 ◆近々要項作成。

④岩登り講習会は無し(年度計画通り)。

⑤21年度指導員養成について ●21年度は実施。但し、受講者が少ないと? ●2～3月に要項を作成。机上講習(6回)等は9月以降実施。同時にテレビで共通科目を受講(年4回実施)

※以上をわかりやすく案内をした要項を作成。

⑥自然観察会3(自然保護委員会) ◆3月28、29日・雲取山荘にて実施、(別紙参照)

⑦ボルダリングジャパンカップ

2月28日～3月1日(長崎県が実施できず、代わって開催) 期日：2月28日・3月1日 会場：川越ロッククラブ(ギャラリー無しの大会実施優先)

※岳連の負担は、スタッフの支援のみ。金銭的な岳連負担無し。WCの練習とする。

◆実施で承認。

(2) 関東地区山岳連盟・連絡協議会について 期日：平成21年2月7日(土)～8日(日) 会費：12,000円/人 分担金：10,000円

会場：「ニュー芙蓉」山梨県甲府市塩部3丁目 9-10 TEL 055-252-1327(代)

参加者：田中名誉会長、森下会長、天野理事長(代行) 協議題等：埼玉からの提案は特になし。

提案がある人は事務局へ連絡してください。

(3) WCボルダリング大会(4/11-12)について ◆12月19日(金) 19時より加須市民体育館にて、第1回実行委員会開催。

(4) その他

①会員証の発行状況について(事務局)

●11月26日、現在32団体647枚の発行(遅れたところは随時発行中)

②県民体育大会(コバトンカップ)の状況について(クライミング委員会) ・top19/r-11/B33/M36

計99名

12月11日(木) スタッフ講習会・打ち合
加須市岳連が田中賞より「田中杯(カップ)」を
作成したので、与えたい。

③日山協表彰規定に基づく表彰候補者の推薦につ
いて 12/25と切

●元名誉会長・浅見豊氏を推薦する。(第二に平沼
理事を推薦する。)

④全国高体達クライミング大会 H21年12月(冬
休み) 加須市で開催決定。(高休連)

5. 各部からの報告等

①指導委員会(野村)
日体協公認指導員・上級指導員養成講習会実
希望調査について 1/30 と切り日体協公認コー
チ養成講習会(H21年度)受講者募集について
1/5締め切り別紙・野村指導員長へ連絡

②国体委員会(長谷川)
国体山岳競技は、向こう5年間は毎年開催。(全競
技団体の中で33位(下から3番)で残る。・平
成21年度より、中学3・参加可となる。

③クライミング委員会(土屋)
12月22日 加須市ボルダリング大会実施↓
見学歓迎。加須市体育館では、5人そろえば初心
者の体験会を開催できます。お声がけください。

④選手強化委員会(小茂田)
11月12日国体解団式で表彰される。

(別紙資料参照)

⑤遭難対策委員会(瀬藤)
平成20年度積雪期山岳レスキュー研修
平成21年1月31日〜2月1日

群馬県・土合山の家(内容:最新装備プローブ
ビーコン)の紹介と検証/冬山における遭難救助技
術に関する検証/ロードセルによる支点の強度計
測(アモ他)

※別紙の通り。各自で直接申し込み。

⑥自然保護委員会(岩崎)
前記自然観察会への参加をよろしくお願ひします。

⑦海外登山委員会(天野)
日山協第22回海外登山女性懇談会12月2日
1名参加、「2008海外登山報告会」兼忘年会
12月6日東松山:上沼旅館 22名参加

●田中会長よりカレンダーを預かってきました。

⑧ジュニア委員会(鎌田) ↓無し

⑨広報委員会(岩井田)
■第32号は1月末に発行予定。現在編集中。

⑩企画委員会(村岡) 村岡さんの名前は残す。

⑪事務局(加藤)・
1月17日・13:00〜日山協新春懇談会・アルカ
ディア市ヶ谷・案内状5部締め切り 12/19
(森下会長、石倉副会長、天野副理事長、岩井田
広報委員長、小茂田委員長)

平成20年度 日出協会員・役員委員名簿2部
(広報委員へ1部)
アイスクライミングJ.C.
2月7日〜8日 群馬県六合村ビレーヤー役員協
力をお願い(群馬岳連(長谷川・岩井田) 他)

6. 閉会挨拶(石倉副会長)
次回・理事会/新年会1月23日(金) 19:00
川越市・さわや担当:岩井田・森下。

常任理事会・2月10日(火) 19:30〜鴻巣高校
理事会・3月10日(火) 19:30〜鴻巣高校

《平成21年理事会・新年会》 開催
平成21年1月23日・川越さわやに 於いて理事
会・新年会を開催した。理事会は加藤事務局長代理
の進行で行われ、コバトンカップの報告、積雪期登
山講習会・指導員研修会の報告、日山協新春懇談会の

報告が行われ、協議事項として2月常任理事会の期
日変更、緊急避難講習会、ボルダリングジャパンカ
ップ、ワールドカップ加須大会等の内容、日程につ
いて協議が行われた。

☆競技部審判講習会・クライミングC級審判講習会
(道浦、樋山、松井、内海、岡野)、
☆アイスクライミング・ジャパンカップ(役員・土
屋、井上、道浦/長谷川・岩井田)

理事会閉会后、広報・岩井田の司会で新年会が行わ
れた。田中名誉会長が都合でこられなかったが予定
通りの参加者があり、新春を祝い懇親した。

参加者は左記の通り(敬省略)

森下会長、柳原副会長、石倉副会長、天野理事長、
瀬藤副理事長、加藤、柳下、平沼、長谷川、小茂田、
岩崎、三ツ木、土屋、岩井田、熊谷、堀江、大石、
斉藤、加藤、新井(川越山の会)、鈴木(無名山塾)

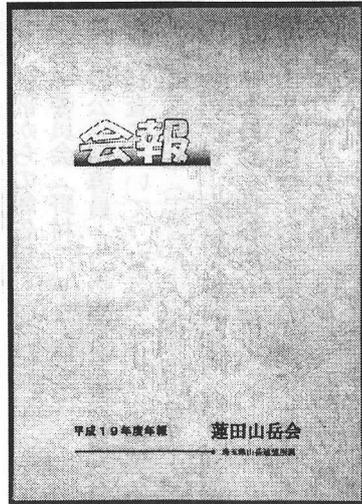
合計21名。



理事会開催

【3】蓮田山岳会 発行者・蓮田山岳会 熊谷方
 《会報》平成20年4月2日発行・A4版・一部
 カラー・27P 印刷・製本

『残雪期の枯木山・白滝沢南岸尾根より』、『越後 丹後
 山ノ岳縦走』、『奥多摩 鷹の巣谷』、『鬼怒川・恋路沢
 龍王峡・川治温泉』、『北海道・大雪山系・十勝岳』、『山
 上結婚式に参加して』、『加賀・白山』、『中ア・越百山』
 『南駒ヶ岳』、『空木岳』、『甲府近郊・蛾ヶ岳』、『頸城・妙高
 山・斑尾山』等々。巻末に年間31回を数える山行報告
 が簡潔に記載されている。各ルートの手書き概念図と、
 挿入されたイラストが味わい深い、これぞ会報たる由縁。
 編集後書に「故あって少人数になった今、当会の裸の
 活動のみを記録に留めた」と編集者の思いを記している。



蓮田山岳会・年報

【4】戸田山の会 発行者 岩崎繁夫

《やまなみ》第16号・平成20年10月25日発行
 A3(半折版)カラーコピー/2P 編集者 堀敦
 ○7月の会山行「会津三岳岳」尾瀬沼。8月「富士山」、
 「荒川三山、他」9月「八海山」未文ヶ岳 他・10月
 の会山行「博士山・高森山」他・登山報告
 平成20年度・戸田市民ハイキング(参加者約90名
 等)掲載。メリハリの利いた山行報告が楽しく読める。
 全ページ、カラーコピーで印刷したぶん紙面を明るく飾

る。レイアウトも良。山行計画や事業報告も載せるとも
 つと親しみある月報誌に、今後が楽しみ。



戸田山の会・月報

【5】川越山の会・五十雀 発行者 中島利一

『五十雀』31号・平成20年12月21日 発行
 A4版(カラーコピー/4P) 編集者・深澤 賢一
 ○黒瀧山・山行報告を掲載、中島リーダーの挨拶から
 予期せぬ出来事など多彩。感想文に途中のアクシデン
 トやスリルある山道に驚きながら、不動寺で精進料理
 を楽しみ、無事終えた山行の、ほっとした文章に納得。
 全編カラーのスナップ写真でその数53点、アルバム
 集と思えばこれも立派な報告書。次回の山行計画と行
 事の日程を記載。発足間もない会ではあるが活発良し。



川越山の会・月報

【事務局便り】

山岳連盟の役員移動がありましたのでお知らせします。

平成20年7月理事会

①桶川山の会・大久保会長が県岳連参与に就任。

平成20年9月理事会

②大倉事務局局長は健康上の都合により今年度の実務を、
 加藤前事務局局長に移管しました。加藤事務局局長代理の
 期間は9月以降21年3月まで。次年度は理事会を調整。

平成20年11月理事会

③村岡理事長(海外赴任)に代わって天野副理事長
 (兼・海外登山委員長)が平成20年12月・就任。

☆ 行事

④(加須SCC)村岡理事に代わり道浦理事が就任。

☆ 計画

12月7日・栃木県岳連創立60周年記念式典に田中
 名誉会長、森下会長、石倉副会長、加藤事務局が出席。

12月13日・山梨県岳連60周年記念式典に森下会
 長、福田副会長が出席。

☆ 計画

①2月28日～3月1日・川越ロッククラフト
 第4回ボルダリング・ジャパンカップ

②2月28日～3月1日・谷川岳登山センター付近
 緊急避難講習会(遭対委・指導委合同)

③3月28日～29日 雲取山
 第3回自然観察会「冬の雲取山」

④4月11日～12日・加須体育館
 ワールドカップ・ボルダリング・加須大会

【編集後書】

32号より「記録レポート」をお届けします、今回の
 大宮ACCの記録は紙面の都合により2回に分けてに載せ
 る予定です。各会の山行から、珍しい地域の山行記録、
 登攀記録などを対象に国内、海外は問いません。

原稿についての問合せは広報・岩井田まで御連絡くださ
 い。

《miwaida@mua.biglobe.ne.jp》